



1

1～4

接続する語句には、次のような種類がある。  
空欄の前後がどのような関係になっているか考えるとよい。

順接	前に述べた事柄が、あとに述べる事柄の原因や理由になっていることを表す。	(例) すると、そこで、だから、それで
逆接	前に述べた事柄と、あとに述べる事柄が逆になることを表す。	(例) しかし、だが、でも、ところが
並立・累加	前に述べた事柄に、あとに述べる事柄を並べたり、付け加えたりすることを表す。	(例) しかも、そして、それから、また
説明・補足	前に述べた事柄について、あとからまとめたり補ったりすることを表す。	(例) なぜなら、ただし、つまり
対比・選択	前に述べた事柄と、あとに述べる事柄を比べたり、比べて選んだりすることを表す。	(例) または、あるいは、それとも
転換	前に述べた事柄から話題を変えて、あとに続けることを表す。	(例) さて、ところで、では

2

- 5 「習慣を自分の物とすること」という意味の慣用句になる。
- 6 直前に「きれいなもの」で寄せつけない方法と逆に「とある。」「きれいなもの」と逆の意味の言葉を探すとよい。
- 1 Aの前に「手入れはいつもどおりやっています」、後に「調子が悪くなってくる」とある。
- 2 植物が人の気持ちを感じて咲かなくなった様子は、二行目～八行目で述べられている。
- 3 「そういった意味」とは、「はじめに植物があつて、動物が進化できた」という内容を指す。
- 4 植物と動物の関係や、植物と動物の比較については、十一行目～十六行目で述べられている。

1 空欄前に「モンシロチョウは江戸時代以前に外国から日本に渡ってきた」、空欄後に「中国などから、舟で運ばれたく飛んでくることもできた」とある。

2 「この」は指示語。

指示語の内容は直前に書かれていることが多い。

3 まず——線部②の後に、「モンシロチョウは江戸時代以前に外国から日本に渡ってきたくつじつまが合うと結論した」と書かれている。

これと、——線部②の中にある、「チョウの幼虫が、アブラナ科の栽培植物をたよりに生活していること」や「確実に日本の在来の種類といえるのはくミギワガラシだけである」という内容を踏まえるように。

4 理由は「なぜなら」で始まる文や、「くからです」で終わる文で述べられていることが多い。



## チャレンジ1

### く国語の知識(語彙・文法・書写)く

1 目を引く⇨注意を引き付ける。

頭を絞る⇨できる限り頭を働かせて考える。

鼻に付く⇨人の振る舞いなどがうっとうしく感じられる。

耳に挟む⇨ちらつと聞く。

2 a 「多く」を修飾している。

b 言い切りの形(終止形)は「柔軟だ」である。

形容詞⇨自立語で活用があり、言い切りの形が「い」で終わる。

形容動詞⇨自立語で活用があり、言い切りの形が「だ・です」で終わる。

接続詞⇨活用がない自立語で、接続語(文と文をつなぐはたらきをする文節)になる。

連体詞⇨活用がない自立語で、体言(主に名詞)を修飾する。

副詞⇨活用がない自立語で、用言(動詞、形容詞、形容動詞)を修飾する。

3 主語が「気になっていることは」となっている。

対応させるために述語にも「こと」を用いるとよい。

4 活用の種類⇨「ない」をつけて未然形の形で判断する

・ 五段活用……「ない」の直前はア段の音

・ 上一段活用……「ない」の直前はイ段の音

・ 下一段活用……「ない」の直前はエ段の音